

# 自助・共助に関する提言案についての樹形図修正箇所一覧表

平成20年(2008年)10月29日

滋賀県流域治水政策室

意見番号	発言者	指摘事項	原文	修正案
0	松尾委員	・その①とその②を入れ替えてはどうか。 ・「安心・安全な地域づくり」とダイレクトな表現でよいのではないか。	水害は必ず起こるという覚悟をもって、 その①安全な避難ができる地域づくり その②地域の防災組織が元気な地域づくり その③先人の知恵と新しい情報を共有できる地域づくり	(意見なし)
1	松尾委員	・「関係する全ての人々」は、「全ての人々」ではないか。	～関係する全ての人々が、～	～全ての人々が、～
2	松尾委員	・文章をもっと柔らかい表現にできないか。若い人ばかりが関心がないのではない。	～。特に関心が薄い若い世代や新住民へと繋げる。	新規に地域に入ってくる人に水害の危険や対応策の知恵を伝える。旨の一文を加える。
3	中村委員	・若い人や新住民は問題であるのだから、表現を和らげて課題として残しておくべきだ。		
4	多々納アドバイザー	・知らない人がいない状態にすることが必要である。		
5	杉本委員	・専門家を定義しておく必要がある。専門家=教授と考えた場合、教授が繰り返し地域に出向いていくか疑問である。	専門家	定義と表現を再検討する必要がある。
6	中村委員	・出前講座を住民説明会などわかりやすい言葉で表現してはどうか。我々の意図する意味で伝わるか疑問である。 ・出前講座は分かりにくいし、いやいややっているイメージがある。「勉強会」という文言の方がよいのではないか。	出前講座	「勉強会」に置き換える案が考えられる。
7	多々納アドバイザー	・出前講座は勉強会と称し、県民が主体である表現にする。	専門家・行政は、地域に出向いて行って、出前講座を繰り返し行う。	行政は地域に出向いて行って、出前講座などの勉強会を繰り返す。
8			出前講座などでは、～するなど、視覚的・感覚的にも情報を伝える。	行政は勉強会などでは、～するなど視覚的・感覚的にも情報を伝えられる工夫を行う。
9	齒黒委員	・学校で子どもが出前講座を受けても、その報告が無く、情報を共有できない。家族全体にその情報が伝わるようにきめ細やかな情報発信が必要である。家にいる人は情報を受けることができない。	～学校教育の場でも行う。	～各種団体・組織にも広げて行う。等の「家を出ない人」にも伝わる情報発信を行う旨の内容とする。

意見番号	発言者	指摘事項	原文	修正案
10	中村委員	・半鐘・スコープ・太鼓などの音は情報伝達である。お地蔵様などは避難の判断である。 ・お地蔵様という言葉だけでは分からない。首まで水位がくる等の気づきの判断基準を明確に盛り込むべきだ。	・地域は、地域にある半鐘・スコープ・太鼓などの音、連絡網を使って情報伝達を行う。 ・地域はお地蔵様などの分かりやすい目印を使って、水防活動や避難の判断を行う。	・地域は、地域にある半鐘・スコープ・太鼓などの音、連絡網を使って情報伝達を行う。 ・地域はお地蔵様などの分かりやすい目印を使って、水位を測る等の水防活動や避難の判断を行う。
11	多々納アドバイザー	「地域は独自の手法を打つべき」という旨を明確にするべきである。		
12	多々納アドバイザー	・図上訓練=DIGではない。冗長な表現となっている。DIGを削除してはどうか。	図上訓練(=DIG)	DIGを削除する。
13	多々納アドバイザー	・水害に強い住まいをつくる。だけではダメか？ ・水害に強い住まいをつくる話と、建てた分は水害にあったときに被害が少なくなるようにすることと分けてはどうか。	～、敷地の土台を高くしたり、貴重品を2階に上げておくなど、水害に強い住まいをつくる。	～敷地の土台を高くしたりなど、水害に強い住まいをつくる。とし、貴重品や財産も「水害に強い住まいをつくる」に収める形に文言を工夫する。
14	杉本委員	・「楽しい防災」「防災といわない防災」という言葉を1回も使ったことがないと思う。1回も使っていない言葉を使うのはどうか。普通の人は分からない。		
15	大橋委員	・楽しんで防災教育や防災の勉強会等々に取り組まなければ、なかなか継続できないだろうと考え、みんなが楽しめる、集える防災にしなければならぬという意味を込めている。	地域は、環境保全の活動や環境学習、地域の祭りなどの地域行事と一緒に水害に関する学習会を実施するなど、「楽しい防災」、「防災と言わない防災」によって、多くの人の参画を促す。	「楽しい防災」と「防災といわない防災」を抜く。 「～水害に関する学習会を楽しく実施するなど、多くの人の参加をしやすいように促す。」という旨の文章とする。
16	多々納アドバイザー	・「防災といわない防災」は大阪大学の渥美先生がずっと使っている言葉である。 ・「楽しい防災」「防災といわない防災」を説明すると文章が長くなりすぎる。削除した方がよい。		
17	多々納アドバイザー	・言い方が強い気がする。		
18	松尾委員	・企業戦士であるから、会社に出向くと思う。	勤めに出る住民は、～地域にできるだけ留まる。	勤めに出る住民は、～地域にできるだけ留まるように努める。
19	多々納アドバイザー	・「サポートにより」を外し、「養成する手助けをする」としてはどうか。 ・地域リーダーの養成の手助けを行政がするとした方がよい。	専門家・行政は、出前講座などのサポートにより、地域の熱いリーダーを養成する。	「行政は、地域の熱いリーダーを養成するように心がける。」を元に、「手助けする。」旨を含める。
20	大橋委員	行政は、地域の熱いリーダーを養成するように心がける。で、どうか。		

意見番号	発言者	指摘事項	原文	修正案
21	多々納アドバイザー	・「互いの家庭の状況を知ることができる」は踏み込みすぎではないか。	住民は、地域のお祭りや運動会などの行事に参加して、互いや互いの家庭の状況を知ることができるように、日ごろからコミュニケーションをとるようにする。	「状況を知ることができるように」を削除する。
22	多々納アドバイザー	・住民がコミュニケーションをとるためには、歯黒委員が発言された「共に行動することをしなさい」という旨の文章を追加すべきだ。 ・ご近所づきあいを大切にする。では弱い。	(追加)	「住民は地域で共に行動する機会をつくる。例えば、字の行事や草刈り、料理教室である。」旨の文章を作成する。
23	中村委員	・草刈りはいいのではないか。		
24	歯黒委員	・草刈りも主人だけが参加している。月1回料理教室やゴミ拾いや、月1回の会所の掃除など、字の行事に進んで参加する旨の内容が良い。		
25	杉本委員	・「組織をつくる(地域は地域で守る)」ということだが、私のところでも一番小さな単位でのコミュニケーションができない範囲の地域になっている。 ・小さな地域を考えると、地域は地域で守れない。という問題をどう解決するか。	自主防災を担う組織は、自分たちのレベルアップや活性化を図るために流域間や上下流間での活動の交流を行う。	「流域の上下流、川沿いの会議など、上下流間の流域での交流をしながら地域を守っていく、広い意味での地域でという形で助け合う。」旨の文章を追加する。
26	多々納アドバイザー	・過疎が進んでいる鳥取県の事例で、谷で広域の連携を維持している。 ・集落だけでなく、谷筋で連携なども1つの地域と呼ぶ必要がある。		
27	中村委員	・3つ目の根毛の7～8行目に「自主防災を担う組織は、自分たちのレベルアップや活性化を図るために流域間や上下流間での活動の交流を行う。」とある。 ・ここに、過疎については、影響を強化する。旨の文言を追加してはどうか。		
28	中村委員	・「連携」に「共に行動する」という旨の内容が抜けている。	社会と連携する	(意見なし)
29	中村委員	・「入札条件等に組み入れる」は表現がきつくないか。問題にならないだろうか。	行政は、これらの地域の活動に対して、地域内の企業や地域外の防災組織に対して、地域の防災活動に対する協力をを行うように働きかける。場合によっては、災害時の企業協力を入札条件等に組み入れることで、協力体制を促す。	「場合によっては、～」以下を削除する。
30	北井委員	・他市の事例を参考にしたものだ。		